

岩尾別川のヒグマ問題

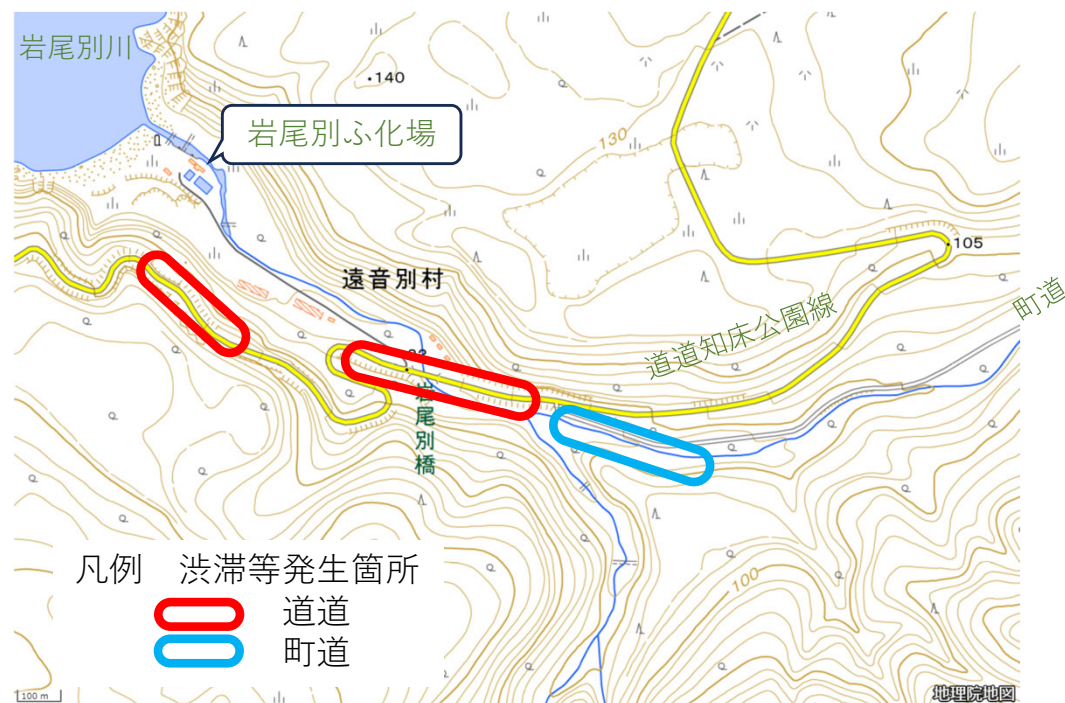
<河川工作物APからのご提案>

岩尾別川の砂防ダムを撤去しサケマス进行自然遡上させたいが、河川の魚を狙ってヒグマが出没すると多くのカメラマンが来て下記の問題が発生するので、このままではウライを撤去して遡上させることができない。

<問題点>

サケの遡上時期になるとヒグマが出没するようになり、撮影のために多くのカメラマンが集まる。

- 路上駐車する車が増え、一般車の通行が阻害されて交通渋滞が深刻化している。
- 一部のカメラマンが危険な距離まで接近している。ヒグマの警戒心が薄れて問題个体化し、人との軋轢リスクが高まる。



これまでの交通渋滞・ヒグマ対策

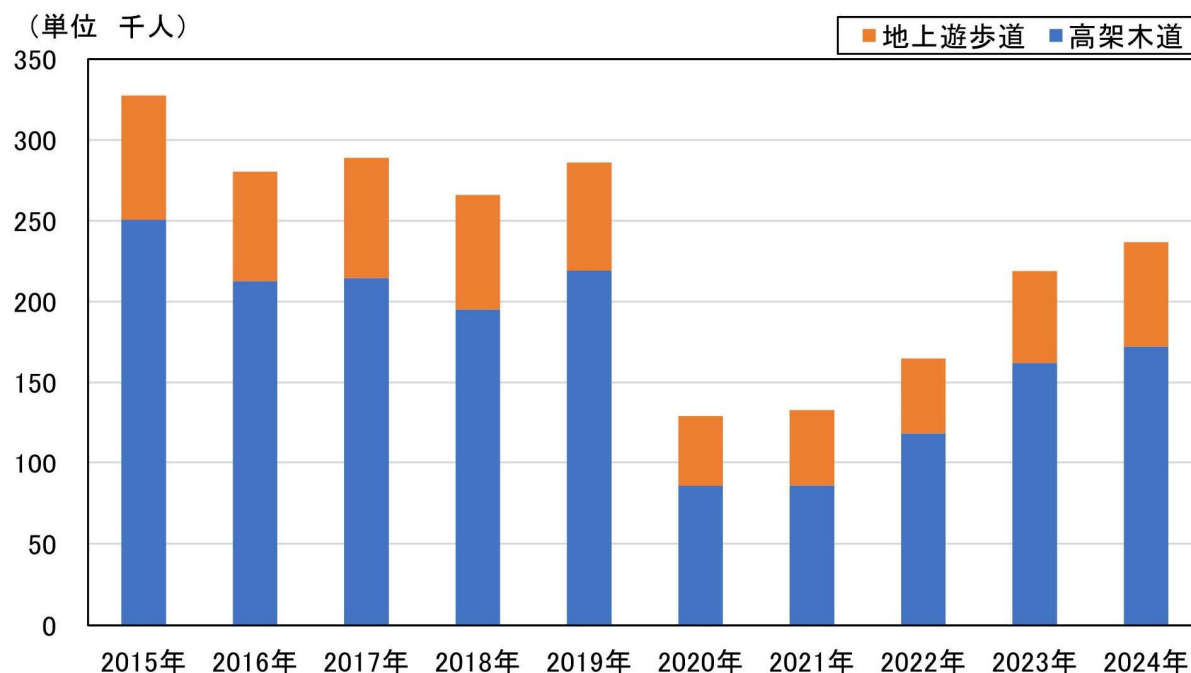
対策の観点

- ① 渋滞対策（ヒグマ出現時に観光客やカメラマンが路上に駐車、渋滞が発生する）
- ② ヒグマとの安全確保（ヒグマにカメラマンや観光客が接近して撮影する）

	対策内容	実施状況	課題等	実施機関
● 利用者規制の取り組み				
①	パトロール・利用者指導 （道路交通法による路上駐車取り締まり、自然公園法第37条関係（R5～））	（かなり以前から実施） ・ 定期的なパトロールと利用者指導、路上駐車を取り締まり、違反行為の現地確認、指導と指示	- ヒグマ渋滞（カメラマン集中）の発生は非常に流動的であり、対症療法的に取り組まざるを得ない。 - 違反行為への対応手順の厳格化が必要。 - 実施機関間の連絡調整。	警察（駐在所）、環境省、知床財団
①	待避帯の閉鎖 待避帯へのロープ柵、看板の設置	（かなり以前から実施） ・ 待避帯をバリアードやロープ柵で閉鎖、看板の設置	物理的措置を講じてでも路上駐車が後を絶たない。	北海道、斜里町
① ②	監視小屋の設置と監視員の配置	H26～27(9月下旬～11月上旬) ・ ガードマンボックスに監視員常駐	- 監視員人材の確保、費用負担が課題。 - 人員を配置した地点以外にヒグマが出没した際には効果がない。	環境省・林野庁・斜里町・知床財団
②	注意喚起のための広報	- 法第37条関係のチラシを現地指導時に配布（R5～） - ヒグマへの餌やり・接近禁止の標識の設置（英語標識含む） - 電光掲示板で餌やり禁止等の周知	認知向上は重要な一方、対策としての実効性には欠ける。	環境省、北海道
● 適正利用・高付加価値化の取り組み				
① ②	マイカー規制（幌別ゲート～カムイワッカ区間） ネイチャーガイドバスツアーの運営	R2～4（10月上旬の3日間） ・ ヒグマの安全確保、混雑や渋滞の課題克服を目的に実施	- 実効性のある取り組みであった - 国の補助金を活用して実施したため、費用負担が大きな課題	カムイワッカ部会
● 普及啓発活動				
②	えさやり禁止キャンペーン	H24～ ・ チラシの配布、ポスターの掲示	継続実施	えさ禁企画実行委員会
②	知床ディスタンスキャンペーン	R2～ - ディスタンスカード・しおりの作成と配布、SNSでの情報発信、道路での注意喚起・看板設置 - イベント出展（ヒグマとの安全な距離やヒグマの生態などの普及活動）	継続実施	カムイワッカ部会

<まとめ>

- これまでに様々な取り組みを実施してきたが、従来の対策では根本的な解決が難しい。
- マイカー規制の取り組みは有効であったが、8月ほど利用者が多くない時期であるため単独事業では赤字となる。費用負担をはじめ、解決すべき課題が多い。
- エコツーとヒグマ管理の視点も含め、理想的なヒグマの見せ方とその対策については地域で十分に議論した上で、実効性のある事業を実施していく必要がある。



2024年実績 計125,305 名

(年間利用者数に対する割合)

8月 51,325名 (21%)

9月 41,792名 (17%)

10月 32,188名 (13%)

2017年実績 計151,357 名

(年間利用者数に対する割合)

8月 70,416名 (24%)

9月 47,047名 (16%)

10月 33,894名 (11%)

知床五湖高架木道及び地上歩道の利用者数推移